



アングリカン連合 ACC18 への報告 ガーナ 2023

報告の目的

1. ACC に対し ACC17 以降のアングリカン連合の活動について最新情報を提供し、新たに出てきた優先事項についてアングリカン連合に対する ACC メンバーの助言を求めること。

アングリカン連合の使命

2. アングリカン連合は、アングリカンの宣教の指標で想定されているように、貧困と不正のない世界のために協力し、創造を保護するためにアングリカン・ファミリーを結びつけ、準備し、鼓舞する役割を果たしている。そのビジョンは、貧しい人々や弱い立場にある人々に対する神の特別な気遣いに照らして、世界における神の全体論的使命に対する私たちの共有された理解と、生涯弟子であることの私たちの使命に基づくものであり、またそれらによって形づくられている。アングリカン連合の3つの相互に関連した活動領域は、次のとおりコミュニオンを支援している。
 - **持続可能な開発** - グッドプラクティスの例を見出し、エビデンスベースを構築し、全体論的使命と持続可能な開発のための専門知識と能力を共有し、優先課題について実践コミュニティを結集する。
 - **救済とレジリエンス** - 災害のレジリエンスと対応の能力を強化する。人道危機の時に地元の教会がコミュニオンを通じて各機関や教会とつながり、祈りと実際の支援を受けるための集合プラットフォームを提供する。

- アドボカシーと影響を与えること - アングリカンのリーダーシップを、既存のリーダーと新たに生まれたリーダーの両方とも、影響を受けたコミュニティとともに結びつけ、それにリソースを提供することでアドボカシー問題について発言する。これには、共通のポリシーポジションの開発、世界のエキュメニカル組織や国連などとのパートナーシップの調整を含み、多くはアングリカン国連事務局と協力してこれらを行う。

"Your Kingdom come, your will be done on earth, as it is in heaven"
Matthew 6:10



Connecting, equipping and inspiring the worldwide Anglican family to work for a world free of poverty and injustice and to safeguard creation

3. アングリカン連合の活動は、コミュニティレベルであれ、コミュニオン全体のアセットの集合であれ、アセットベースト・アプローチに基づく。私たちの地域協議、ACC 決議および Lambeth Conference に基づき、私たちの理事会からの指導を受けていることとともに、私たちの戦略的焦点はこの図に要約され、私たちのビジョンを中心に、私たちの活動方法がその周りに配され、外側のサークルには私たちの現在のテーマ別優先事項がある。

アングリカン連合の組織

4. アングリカン連合は、カンタベリー大主教とアングリカン・コミュニオンの主導により、2008年のLambeth Conferenceの勧告を受けて2011年に作られた。コミュニオン全体から選ばれた最高理事会は、中央アフリカ大主教が議長を務め、職務上、AC セクレタリー・ゼネラルを含む。アングリカン連合は最終的には、慈善団体のメンバーであるACC 常任委員会が所有する。常任委員会は年次監査を受け、受託者の指名を確認する。連合の参加者は、コミュニオンを取り巻くすべての教会、機関およびネットワークであり、そのビジョンと使命を共有している。
5. アングリカン連合チームは、地域ファシリテーターがおり、太平洋、アジア、中東、カリブ海およびラテンアメリカに分散しており、アフリカではCAPAと緊密に連携している。連合にはウガンダを拠点とするシニアアドバイザーがおり、ACOを拠点としてエグゼクティブディレクターを含む3人のスタッフがいる。今度のパンデミック中の経験は、分散したオンライン作業の有効性を高めた。アングリカン連合は、ACOの他の部門と緊密に協力し、アングリカン・コミュニオンが神の使命に答える上で、コミュニオンのために活動・

支援する役割を共有している。ExDir は ACO マネジメントチームの一員である。また、私たちはコミュニオンのネットワークや委員会、Lambeth Conference チームとも連携している。私たちは Lambeth Palace のスタッフと協力して、国際的な問題や和解に取り組んでいる。以下報告するように、連合は 2022 年 Lambeth Conference に大きく関わった。

アングリカン連合のハイライト：2019～2023

6. 連合はコミュニオンの新型コロナウイルス対応を支援

2020 年初頭に新型コロナウイルスの世界的大流行が始まったとき、アングリカン連合は直ちにすべての活動を見直し、危機の間コミュニオンを支援することに注力した。新型コロナウイルスとその経済的・社会的影響に対応するために最も効果的な行動を促進するために、各国の教会や地元の主教区と協力した。通訳を想定したオンライン方式により、連合は必要に応じて複数の言語で会議を開催することを目指している。新型コロナウイルスへの対応の主な分野は次のとおりである。

- **我々の新型コロナウイルス・グローバルタスクフォース**：これは、世界の新たな問題を見定め、連合の戦略的対応を導くために、隔週で、その後月ごとに会合した。これは、コミュニオンを集め、世界的な視点からパンデミックを分析するための非常に効果的で持続的なプラットフォームとなった。
- **[新型コロナウイルス・リソースハブ](#)・オンラインの立ち上げ**：これは、保健情報、持続的な礼拝、パストラルケア、人道的対応に関するケーススタディ、そして聖書研究を含む信仰に関するリソースを含む幅広いトピックを対象とした。リソースハブは 4 つの言語に対応している。
- **継続的な地域協議**：私たちの地域ファシリテーターは、私たちの地域フォーラムとのオンラインミーティングを通じて、地域での学習を共有し、私たちのグローバルな概観を維持した。新たな問題としては、メンタルヘルス、若者の教育と生活への影響、ワクチンの公平性と信頼性などが挙げられる。
- **世界保健機関とのパートナーシップ**：私たちは WHO のチームと協力して宗教コミュニティと活動した。連合は、ワクチン問題に関する信仰アドボカシーについて 2 つの WHO ウェビナーパネルで話した。これを通して、アングリカン連合はアングリカン・ヘルス・コミュニティネットワークの（再）立ち上げを促すことができた。

- **ワクチンの公平性に関するアドボカシー**：アングリカン・ヘルス・コミュニティネットワークと協力して、さまざまな管区と活動した。G7 サミットに向けたアドボカシーと協調行動について知らせた最初の[世界のワクチン公平性に関する方針書](#)に続いて我々は、高所得国が[余剰のワクチン備蓄](#)を解放するように働きかけるアドボカシーを支援した。私たちはまた、新型コロナウイルスの新たな治療を受けることに関する公平性を唱えた。
- **ワクチンに対する信頼の促進 – 情報と国民的な対話**：世界的なワクチン接種の普及にさらなる大きな障害となったのは、真の懸念、不信および誤った情報によって広く起こったワクチン接種へのためらいであった。このためらいの根源は深く複雑で、信頼を築く対話が必要であった。私たちのオンラインリソースを通じて主な懸念事項に答え、フェイクニュースを暴露したことに加えて私たちは、主教やその他の人々とキリスト教徒のワクチン科学者を集めて国レベルのワクチン対話を促した。
- **アングリカン・コミュニオンの大主教の支援**：私たちは、パンデミックに対するコミュニオンの対応について 2021 年後半に Primates' Meeting に説明するよう招かれた。2021 年に、私たちはアングリカン国連代表と協力し、将来のパンデミックに備えるため、提案された WHO [世界パンデミック条約](#)について大主教に説明した。
- **メンタルヘルス**：私たちは、メンタルヘルスの状況を議論し、さまざまなリソースの文脈で教会が何をし、対応するために何ができるのかを見定めるために国際グループを招集した。我々は、AHCN がアジア太平洋地域の地域協議を招集し、LC2022 でこのトピックに関するセミナーを促進する支援を行った。
- **ニュースの共有と希望の維持**：私たちはパンデミックの間、コミュニケーション活動を続けた。連合とコミュニオンのパンデミックへの対応に関する[ブリーフィング](#)の例については、こちらをご覧ください。

7. 環境・気候正義

アングリカン連合は、ACC17 以来、この分野で重要な活動を続けてきた。私たちは、アングリカン UN チーム (ACOUN)、アングリカン・コミュニオン環境ネットワーク (ACEN) および環境 (「エコ」) 主教グループと緊密に協力している。また、私たちはアングリカン先住民ネットワーク (AIN) やアングリカン・ユース・ネットワーク (AYN) ともつながっている。

- **気候 COPs**：私たちは、ACOUN が主催し、ジュリオ・マレー (+ + Julio Murray) が議長を務めた COP26 (2022) と COP27 (2022) ワーキンググループで重要な役割を果たした。エンゲージメントプランには 3 つの優先事項があった：1. アングリカンのリーダー

シップを促し、高めること。2. 若者や先住民のアングリカン・キリスト教徒の参加を広げ、同行すること（代表団の一部を含む）。3. 気候変動による損失や損害に対する「レジリエンス」と「公正な資金調達」を重要なポリシー課題として推進すること。国連代表が長期休暇のとき、アングリカン連合は、[ポリシーポジション文書](#)を作成し、COP26 と 27 で代表団を支援する上で中心的な役割を果たした（[こちら](#)を参照）。

- **一つの重要なポリシー成果：** 国際損失・損害制度の確立が COP27 で達成され、この活動と環境に関するランベス呼びかけに基づいて構築された。次の課題は、この制度が確実に資金確保され、適切に実施されることである。
- **アングリカン・リーダーシップに関するウェビナー：** 私たちは、COP26 ワーキンググループと協力して、「COP26 とその後の気候変動交渉の成功に向けたアングリカン・リーダーシップ」というタイトルの一連のウェビナーを行った。4 つの言語による 3 回のウェビナーが開催され、50 人の主教と 9 人の大主教を含む 100 人を超える参加者を得た。
- **環境リソース：** 私たちは、オンラインの[気候危機ハブ](#)を継続して拡大している。
- 私たちは、コミュニオン全体で**草の根環境活動**を支援し、拡大している。連合のファシリテーターは**地域の取り組み**にも関与している。世界的には、私たちは 2 つの世界的エキュメニカルの取り組みである「私たちの世界と創造の季節を新たに作る」の活動を支援している。
- 私たちは、アングリカン先住民ネットワークからの神学的洞察に触発され、それらの神学的論文と**環境危機に関する予言的先住民の声**に関するビデオを歓迎した。
- **LC2022 での環境：** 私たちは、Lambeth Conference で、コミュニオン・フォレスト（下記参照）の立ち上げを含む、環境をテーマにしたストランドを作るのを助けた。

8. 安全な移住と人身売買

- **地域協議：** 2018 年以降、私たちは、主に救世軍と協力して開催された 7 つの地域協議から学んだことを統合し、安全な移住と人身売買への取り組みに関する活動を続けている。これにより、私たちの戦略的な「フリーダム・フレームワーク」に基づく、宗教的対応に関する一連のリソースが生まれた。この活動はパンデミックの間も続けられ、特に立場の弱い移民労働者を主な対象とした。
- **一連のオンライントレーニング：** 2022 年には 4 部構成のコース「2月のフリーダムフライデー」を実施し、CAPA と協力して参加者を募り、アジアとアフリカで 120 人を超える参加者を得た。

- 私たちの**地域実践コミュニティ**はオンラインで会議を継続した。私たちは、革新的なアプリの公開を支援するなど、安全な移住を促進し、人身売買を防止するための共同戦略を開発するために、アフリカおよび中東で CAPA と協力して取り組んできた。
- 私たちは、コミュニオンのオンライン「**移住に関するワーキンググループ**」に参加している。連合は、ラテンアメリカでのリーダーシップを支援し、南北アメリカの移民問題に関する2つのグローバルウェビナーを開催した。

9. アセットベースト・チャーチ・コミュニティ・トランスフォーメーション (ABCCT)

- **主なアジア地域協議**：2019年には、Tearfund と共同で、ABCCT のアプローチについて深く検討するために、ミャンマーでアジア各地から実務家を招いて会合を持った。
- **実践のコミュニティ**：パンデミックの間、私たちはオンライン会議をオンラインで開催し、教会がすでにこれらのアプローチを取り入れていた取り組みが、新型コロナウイルスの影響にうまく対処している例を挙げた。
- **地域適応**：私たちは、ABCCT のアプローチを適応させるために中東と東アジアの教会を支援している。
- **アングリカン・ユース・ネットワーク**：私たちのスタッフは、アングリカン・ユース・ネットワークの再構築を支援してきた。私たちは、ABCCT や若者の生計、気候変動アドボカシーについてそれらと協力している。

10. アングリカンの宣教の指標と国連グローバル目標

- **文脈的聖書研究**：私たちは、南アフリカのウジャマセンターとグローバルな協議を行い、神学者や聖書学者、開発実践者を集めてリソースを作り、私たちの世界を再想像することで、アングリカンの宣教の5つの指標を国連持続可能な開発目標に関連付けた。これは、TEAC（神学教育）の支援を受けて、4つの言語でオンラインで公開されている。
- **アドボカシーの取り組み**：私たちは、アングリカン国連チームと協力して、宣教の指標のレンズを通して、この宣教の取り組みと国連グローバル目標との関連性を強める新たなコミュニオンの取り組みに向けて活動している。

11. 災害時のレスポンスとレジリエンス

- レジリエンスコースは、エписコパル・リリーフ・アンド・デベロップメントとともに、12回の毎月のグローバル学習交流を通じてオンラインで実施され、42カ国から140人を超える登録参加者（特に女性と若者）を得、6か国語、4つのタイムゾーンで実施された。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。このコースは現在、各地域に展開されている。
- レジリエンス・レスポンス・パートナー：私たちの「レジリエンス・レスポンス・パートナー」（PiRR）チームは現在、「伴奏者」のネットワークを構築している。これは、レジリエンスの構築と災害対応において、地元の教会を直接またはオンラインで支援するために育成・配置した人々である。
- 人道支援対応：この期間、パキスタン、南スーダン、コンゴ、マラウイ、ジンバブエ、モザンビーク、マダガスカル、トンガ、ブラジル、バハマ、セントビンセントなどの人道災害（および新型コロナウイルス）に直面している教会との連帯のために呼びかけを行い、共同でコミュニオンとしての対応を行った。
- 祈りにおける連帯：私たちは、世界情勢に関して定期的にニュースと祈りの[最新情報](#)を提供している。これは、危機の時にコミュニオンの一人でも孤独を感じさせてはならないという、連合創設当初からの使命の中核である。
- 食料安全保障：2022年、気候変動やパンデミック、ウクライナでの戦争、燃料価格に関連した世界的な金融不況は、世界的に[食料安全保障](#)に深刻な問題を引き起こしている。私たちは、さまざまな地域の状況を監視し、実際的な対応について学んだことを共有するために一連の会議を実施した。

12. **Lambeth Conference** : 2008年のLambeth Conferenceで発足した連合は、LC2022の計画と実施に次のように広く関わった。

- 主教と配偶者のための会議前オンライン対話のデザインと促進を支援。
- 「環境と持続可能な開発」に関するコンファレンス・ピラーを共同で主導し、ランベスの呼びかけを起草する編集グループのスタッフを配置。
- 環境、SDGsおよび会議の重要な遺産としてのコミュニオン・フォレストの立ち上げを中心としてロンドン・デーを共同で指揮。
- リソースセンターで、連合とコミュニオン・フォレストのために2つのインタラクティブなストーリーを主導。
- 関連するコミュニオン・ネットワークとパートナーを組んで、私たちの優先事項に関連するトピックについて主教と配偶者向けに次の8つのセミナーを計画および共同進行。
 - SDGsとアセットベースト・チャーチ・コミュニティ・トランスフォーメーション

- 環境危機
- 気候変動とコミュニオン・フォレスト
- 移住と人身売買
- 保健情報
- メンタルヘルス
- 青少年の生活
- 学校におけるアングリカンの務め
- 私たちは興味のある主教らとこれらのトピックをフォローアップしており、場合によってはさらにウェビナーを開催している。

13. **コミュニオン・フォレスト**：[コミュニオン・フォレスト](#)は、創造を守るためにアングリカン・コミュニオン全体の管区、主教区および個々の教会が行う森林保護、樹木の栽培および生態系の回復といった地域活動からなるグローバルな取り組みである。アングリカン連合とアングリカン環境ネットワークは、エコ主教の作業部会の主導によりこの取り組みを生み出した。主なステップは次のとおりである。

- Lambeth Conference のロンドン・デーで発足に漕ぎつくことができ、現在私たちは小さなチームを設立している。2人の非常勤のコミュニオン・フォレスト・ファシリテーターがおり、コミュニオンのさまざまな地域で重点的に実施し、連合と環境ネットワークのスタッフからサポートを受けている。
- [コミュニオン・フォレストのウェブサイト](#)は、コミュニオンを通じた経験を共有することで発足・開発された。ソーシャルメディアが開発された。
- フォレスト・ファシリテーターは、彼らの重点地域の主教や開発リーダーと対話を行い、心強いフィードバックを得ている。Lambeth Conference から戻って以来、主教たちはこのコンセプトを共有し、この運動に参加したいというアングリカン主教区の勢いが増しつつあることを私たちは感じている。
- 私たちはそのコンセプトを説明するためウェビナーを開催した。様々な言語/タイムゾーンで実施し、100名以上の方々の参加を得た。
- 国連環境計画、世界自然保護基金など、外部のパートナーからも大きな関心が寄せられている。
- その可能性は計り知れない。6ヶ月間のコンセプトテストを経て、私たちは現在、詳細戦略計画を策定中である。私たちは、コミュニオン・フォレストを前進させるための最善の方法について ACC の指導を得られることを期待する。

14. **まとめ**：アングリカン連合は、ACC 常任委員会からの継続的な指導と支援、そして ACC の定期的な会合やその間の時期における多くの ACC メンバーからの助言と協力、さらに 国、地域およびグローバルレベルでの私たちのさまざまな活動に参加いただくことに大きく期待している。我々は、厳しい新型コロナウイルスの期間の後、アングリカン連合の優先事項を新たに方向づけする上で、ACC メンバーの指導を歓迎する。

Revd Canon レイチェル・カーネギー、アングリカン連合エグゼクティブディレクター